

【From Kobe 4月】 光月に続いて 変わり行く 故郷「尼崎」のこと

先月 「尼ロック」を紹介しましたが、地元の仲間ばかりでなく 多くの方から 色々メールをいただいたり、昔の話をきかせていただいたり、ついぞ忘れていたことなど昔の記憶をよみがえらせることができました。ありがとうございました。
その一部をお話するのも含め、今も続けて わたしの故郷「尼崎」です。

- 阪神電車 なんば線開通と甲子園リニューアル
- かつての鉄の街・尼崎の象徴「尼崎の三本煙突」探していた写真 を送ってもらいました
- 宮本輝 流転の海 第五部「花の回廊」におさないころの「尼崎」が描かれていました

1. 阪神電車 なんば線開通と甲子園リニューアル

3月20日 阪神電車 なんば線が開通して、神戸三宮-大阪なんば-奈良が直通でつながりました。
大阪梅田へ向かう本線から尼崎で分岐して西九条までの西大阪線をさらに東へ延伸して近鉄難波駅へ相互乗り入れ。
神戸三宮発奈良行の直通運転が始まった。
すぐ「なんば」につながると言われつづけて 何年になるか……。もう あきらめ気味だったのですが……。
これも USJ・ユニバーサル ジャパンと甲子園球場の集客力のなせる業か……。
その西宮甲子園球場もリニューアル 3月21日から 選抜高校野球が始まりました。
球場が大きすぎて 夜間照明が届きにくく、照明塔がニューと延びていた足が観客席にあつて、観にくかったのですが、今回 内野席を覆う大銀傘と共に まっすぐに改造。でも 甲子園のやわらかいカクテル光線はそのままに……。
阪神電車なんば線の開通は庶民の町「尼」がますます変わってゆく象徴かもしれません。



うれしくて、阪神難波線開通前に発売された三宮—奈良間の1日フリーキップ[開通記念お試しフリーチケット]が2万枚発売された翌日 三宮へ買いに行ったのですが、「そんなもん すぐに売り切れ。2時間で全数なくなりました」と。
みんな 待ち望んでいました。
便利になって 町がきれいになっても 庶民的な尼崎のよさがなくならないように……。と願っています。

2. かつての鉄の街・尼崎の象徴「尼崎の三本煙突」 探していた写真 を送っていただきました



「鉄の街」尼崎昔 (1) 昭和 32 年当時の 住友金属钢管製造所の三本煙突

住友金属工業六十年小史 (昭和 32 年 5 月 20 日発行)
 左下から右上へ南北に阪神尼崎駅から東海岸町・尼崎港への五合線 道の左側東向島東之町 右側 東向島西之町
 左下が築地の街で運河に架かる五合橋(築地橋) 钢管製造所の工場街を抜け右上が可動橋の東高洲橋
 左上端の川が東福運河 「J」字に下から右への運河が庄下川(旧左門殿川)

先日 仲間から「三本煙突」の写真と共に「煙突はなくなっているが、工場はすこぶる元気」とのメールを貰いました。

ちょっとあきらめ気味でしたが、尼崎「三本煙突」の写真が見られました。

かつて、阪神尼崎駅周辺から 南を望むとおおきな三本の煙突がそびえ立ち、すぐ横の五合線を南の工場街へ向かう人と自転車の群は幼き頃の記憶にある鉄の街・尼崎の象徴。現在は阪神電車が高架になり、南が遠望できるのですが、煙突が消え、なんとも間の抜けた姿に……。

もう 記憶が定かではありませんが、三本煙突の 1 本が折れ、それからまもなく すべて解体された。

仕事で通っていた頃にはあまりに身近で気にもなりませんでしたが、尼崎を離れ、阪神電車に乗ると知らず知らずこの「三本煙突」を探していました。

うれしい限り。私の写真ファイルにしっかり 納めました。

多くの方が D51 の躍動感にひかれますが、堂々と立ち、白煙をもくもくとあげる煙突の姿も格別。元気がもらえました。

阪神間では 神戸三宮から阪神高速道路に乗り、東へ向かうと 高速道路の真正面に 1 本の赤白縞模様の大きな煙突が白煙をあげる場所があったのですが、この景色もなくなりました。時代の進歩とはいえ、さびしい限りです。

下記は 鉄の街 尼崎 工場街今昔の写真です。



1964年 関西電力 第一・第二発電所



「鉄の街」尼崎 昔(2) 関電の3つの発電所など 尼崎港周辺工場街 東広町周辺

末広町 関西電力 尼崎第一・第二発電所 1984年 インターネット検索より



公園都市「鉄の街」尼崎の今 青空とハイテク化された鉄の街 シンボルは尼ロック 2009.3月

【参考】 和鉄の道 陽だまりハイク 工都 尼崎 を支える「尼崎港閘門 (尼ロック)」Walk

<http://buffalonas.com/mutsu/www/2009htm/iron5/0903amrk00.htm>

3. 宮本輝 流転の海 第五部 「花の回廊」に

幼い頃の「尼崎」が描かれていました 「牛マメ」って 知っていますか……

戦後の尼崎の庶民を描いたものという「カモカのおっちゃん」田辺聖子のエッセイ集が有名なのですが、戦後まもない頃の尼崎の庶民の生活 それも難波のことが 宮本輝流著「転の海 第五部 花の回廊」に描かれていると教えてもらった。

阪神尼崎駅の北約 100m の所を東西に阪神国道・国道 2 号線が通っていて、この尼崎駅から西側の 阪神国道より北側一帯を「難波」という。私の故郷です。

図書館で借りた宮本輝 流転の海 第五部「花の回廊」。

「好物のマメギモがでてくるよ。あのマメギモが……」と一部から順番に読んできた家内がいう。

「本当か……」と第 5 部「花の回廊」にとびついで拾い読みしてびっくり。

小説の主人公の小学生の子供が その頃国道 2 号線を走っていた国道電車東難波電停前 蘭月ビルの安アパートの一家に預けられ、難波小学校に通いつつ、その頃の小学生を通して庶民の生活がリアルに描かれている。

蘭月ビルは電停前にあった映画館香月ビル 難波小学校は母校である。

描かれる戦後間もない庶民の窮乏生活 私自身が体験したそのものではありませんが、同じ地域で見て来た生活空間があまりにもリアルに描かれているのにびっくり。

ここに住んでいた同窓の仲間以外に話してもまったく通じなかった生活空間が描かれていました。まあ 尼崎だけでなく 街ではどこでもこんな風な生活空間だったと私は思うのですが……。

また、この小説の中で牛の腎臓「牛マメ」が庶民の生活の象徴のように何度も描かれている。私はそのスライスしたものを「マメギモ」と呼び、中心部に脂肪が集まっていて、ショウガ醤油について焼くと実にうまい。私の好物でもあります。

でも、家内は この得体の知れない食べ物に当初びっくりしたという。

この「牛マメ」が小説の中に「マメの会(牛マメを食べる会)」と称して 住人達と食べる会が何度となく出てくる。

ついぞ 忘れていたのですが…… 本当にびっくり。

この「マメぎも」には 大学に入って 独り下宿した大学時代にも思い出がある。大学の生協食堂でこの「牛マメ」のソティ定食みつけ、食べるのを当初 仲間たちが不思議がって見ていました。

「マメぎも」などといった名前ももう消え、遠く記憶から消えていましたが、本当に自分の幼い頃の生活体験を思い起こしながら、一気に読みました。

昔を懐かしがってばかりでは いけないのですが、何か無くしてしまったものを見つけたような気になりました。

また、家内とふたり ひとしきり この小説の「尼崎」「まめぎも」を話題に 二人の同窓会。

今 この神戸出身の作家の作品が世代を超えて人気だと聞きましたが、私には幼い頃の尼崎での生活空間をリアルに思い起こさせてくれました。

また、戦後の仲間の生活の中に こんなこともあったのか……と いろんな仲間が頭に浮かんできました。

幼い頃の体験など、なんぼ言葉をつくしても その場で一緒に生活したことのない人には理解されないと思っていますが、あまりのリアルさと懐かしさにびっくり……。

同窓会世代の方々にとって 遠い幼い頃の生活の記憶を思い起こすにはいいかも……。

お勧めです。



牛の腎臓 (スライス)

「まめぎも」の例